

## 第 2 1 回「あび北フォーラム」議事録

**開催日：** 2025（令和 7）年 6 月 1 5 日（日） 13 時 30 分～16 時 00 分

**開催場所：** 我孫子北近隣センター

**参加者：** 自治会等： 2 1 自治会等 3 0 人

我孫子市役所：市民協働推進課 2 人、市民安全課 2 人、高齢者支援課 1 人

NPO 法人エンリッチ 1 人

地域会議事務局等： 1 1 人

（合計 4 7 人）

### 配布資料：

- ①開催要領（事前配布）
- ②令和 7 年度「あびこハザードマップ」及びハザードマップを活用した地域での防災訓練の実施に係る説明資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・市民安全課資料
- ③我孫子市における高齢化の現状について・・・・・・・・・・高齢者支援課資料  
参考情報 1 \_\_高齢者のための日常生活困ったときガイド（2023 年版）（紹介チラシ）  
参考情報 2 \_\_「みんなでふれあいライフ」高齢者見守りネットワークで高齢者をみんなで支えましょう！（高齢者見守りネットワークの紹介チラシ）
- ④我孫子市安否通知サービス「LINE を使った安否通知サービス」説明会資料  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・NPO 法人エンリッチ資料
- ⑤参考情報\_\_AED 近くにありますか？ ～「もしも」に備えましょう～（チラシ）
- ⑥あび北フォーラム 2024 年度の歩み・・・・あび北フォーラム事務局作成
- ⑦「あび北フォーラム」アンケートのお願い

### 1. 開会挨拶（要旨）

#### ○事務局長：

今回のフォーラムで採り上げたテーマについての主旨説明があり、今回学んだことが自治会活動の中で参考になればとの話があった。

【ハザードマップの見方と地域での活用について】

近年の気候の影響で各地域で被害が続出しており、当市も水害が身近なものになってきている。そのようなことを踏まえて本年 2 月にハザードマップが改訂された。そこで、改訂のハザードマップの見方と地域での活用について学ぶ。

【LINE を使った安否通知サービスについて】

全国で高齢者世帯が増えており、それに伴って 1 人暮らしで亡くなる高齢者が増えつつあるとの報道があり、孤独死・孤立死への関心が高まっている。当市は生活困窮者孤立死防止対

策事業の取組として、NPO 法人エンリッチの LINE を使った安否通知サービスを市民向けに無料で提供している。そこで、その意義を含めて学ぶ。

**○市民協働推進課 課長補佐兼係長：**

今回の2つのテーマはどちらも命に関わるもので、ここで学んだことが地域に広まることを期待するとの挨拶があった。また、命に関わる対応策の一つとして、市は AED の設置拡大を進めているとの紹介があった（資料⑤）。AED 設置には補助金があり、自治会での設置も一定条件を満たせば可能なので、設置を検討する時は市民協働推進課に問合せをとの話があった。

**2. 「令和7年度版ハザードマップの見方と地域での活用について」と**

**「我孫子市の『LINE を使った安否通知サービス』について」の説明と質疑応答（要旨）**

**(1) 「令和7年度版ハザードマップの見方と地域での活用について」**

市役所市民安全課からの説明（資料②）に続き、質疑応答があった。

**《主な質疑応答は以下》**

Q1：説明内容を出席した自治会会長から住民全員には全部は伝えられない。そこで、我孫子市の YouTube など住民向けに動画で見れるようにするなどを考えてもらえないか？

A1：現在は考えていない。

Q2：避難行動要支援者に対し、市はどのようなアプローチをしているのか？

A2：市では（避難行動要支援者の）個別避難計画を作成している。

個別避難計画とは「要支援者がどこにいて、どこに避難するか」の計画を、1人ずつ立てている。しかし市内の対象者全員についての計画を一気に作成するのは難しい。そのため土砂災害警戒区域に住んでいる住民を優先的に計画している。また名簿をもとに地域の方にも対象者に声をかけて頂くことも行っている。

Q3：有事の際、避難所は誰がどのように開設するのか？

A3：避難所の開設は必ず市役所の職員が行う。

地震の際は、市役所の職員がマニュアルに沿って「施設の安全性を確認したうえで」開設する必要がある。

市の職員が避難所の近くに住んでいるとは限らないため、（避難所の）鍵は個人が持っているのではなく、小学校・中学校にも鍵を置き、市役所職員であれば誰でも開けられるようにしている。

風水害の際は、被害がでると予測される場合、川や沼の水位を確認しながら事前に避難所を開設できるように市の職員が準備している。避難所の開設が長期間になる場合は地域住

民の力も借りる必要はある。

Q4：避難所は、一斉に開設となるのか？

A4：避難所は、全てを一斉に開設するのではなく、必要とする避難者の状況（人数）により、開設する順位を設定している。

まずは第1順位の小学校を開設し、状況をみながら、第2順位、第3順位と開設していく。

## （2）「我孫子市の『LINEを使った安否通知サービス』について」

市役所高齢者支援課およびNPO法人エンリッチからの説明（資料③と④）に続き、質疑応答があった。

### 《主な質疑応答は以下》

Q5：このサービスは、スマホを持っていて使える人が対象だろうと思う。

孤独死・孤立死防止では、セルフネグレクト（自分自身の健康や生活への関心がなくなり、自己管理がおろそかになる状態を指す）、一人住まいで周囲と関係が希薄化している方を見つけ出せるかが一番大切ではないかと考えています。LINEを活用するのはいいと思うが、

それを利用できないような状況の方が、すでに孤独・孤立になっているのではないかと。自分が住んでいるマンションでは緊急連絡先をもう一度見直しを行っている。

市は、地域と繋がれない人にもこのサービスを利用してもらおうと思っているのか？

A5：（高齢者支援課）

見守りサービスの一つとしてエンリッチのサービスを利用してもらっている。

スマホの利用が難しい方に対しては、生活体制整備指導事業として、スマホ教室を定期開催している。

また、孤独・孤立の問題は高齢者だけではない。このサービスは様々な年代に対応できるようになっている。心の病や障害の方にも活用できるのではないかとということで、運用方法を検討している。

Q6：サービスの紹介、運用方法だけではなく、実際に利用した事で、どういう良さがあったのかななどの成功例、実用例が知りたい。

A6：（NPO法人エンリッチ）

このサービスの利用で、一人住まいで亡くなった方を早期に発見することが可能です。

このサービスを利用したからと言って、孤独死・孤立死を防げるわけではない。しかし何

日も経過してからみつける事態は防げるとの思いで、運営している。

Q7：本サービスについて、自治会への期待は何か？

A7：(事務局)

本サービスは、見守られる方と見守る方のどちらかが、LINE アプリの友だちグループ機能で友だちグループを作成し、もう一方の方をそのグループに招待し、利用を開始するもので、その設定さえしてしまえば、LINE の操作に不慣れな方でも簡単に利用できます。

しかしながら、LINE アプリの当該機能をご自身で設定できない方は、できる方に設定をしてもらわないと、利用するのは難しいと思います。

そここのところを理解した上で、本サービスを必要とする方や関心のある方に紹介して頂くことを期待しています。

そして、必要によっては設定のサポートも支援して頂けたらと思います。

地域での紹介は、例えば、自治会のイベント（例えば、防災訓練等）を活用するなど、可能な方法で行って頂けたらと思います。

また、その際に、LINE を使っている方が設定のお手伝いをする事なども、地域内でのコミュニケーション強化、しいては防災力の強化に繋がっていくものと思います。

### 3. 連絡事項

- (1) 次回・次々回のフォーラム開催にあたり、参加自治会の現状把握と採り上げたいテーマについてのアンケート実施への協力依頼を行った。
- (2) 次回・次々回の開催予定日のアナウンスを行った。

以上